

# 技能講習テキスト

## グループアプローチ(ワーク)の運営トレーニング



# ▶ 1、講習概要

## (1) 講習

グループ学習の意義はメンバー相互の話し合い、双方向での関心の交流を通して、参加者全員が持つ経験や背景を共有させることにより、課題の解決を図ったり、相互の共感を共有することによって学習、動機づけ、必要な態度の形成に至ることを目的とする。その際に情報提供や専門的介入を行い学習活動を促進する役割を「ファシリテーター」という

## (2) 講習を通して習得する目標項目

- ①グループワークを実施する上での基礎知識の理解
- ②グループワークを実施する上での参加者の特性の理解とキャリアコンサルタントとしてのアプローチする視点の理解
- ③ファシリテーションスキルの向上

## (3) 講座を通して習得するグループへの支援効果

- ①グループワーク運営の留意点と実施方法
- ②グループワークの実践と体験



## ▶ 2、グループアプローチ(ワーク)基礎

### (1) グループアプローチとは

グループアプローチとは集団を対象にした支援制度のことを言い、個人の心理的治療・教育・成長、個人間のコミュニケーションと対人関係の発展と改善、および組織の開発と変革などを目的として、小集団の機能・過程・ダイナミックス・特性を用いる各種技法の総称。多くの方法があり、集団精神療法（グループ・サイコセラピー）、心理劇、T-グループ、ベーシックエンカウンターグループ、構成的エンカウンターグループ、グループワークなどがある

### (2) グループワークとは

グループワークとは、メンバー相互の話し合いを通じて全員の持つ知識・経験を共有することで各人の問題解決のヒントや共感を得ることによって学習や動機付け、態度、習慣の獲得を促そうとするもの。



## ▶ 2、グループアプローチ(ワーク)基礎

### (1) グループファシリテーションとファシリテーターの役割

- ・グループワークを通じてグループメンバーが学ぶ場合、グループワークの担当者の役割は、学習活動を促進する役割をもつ「ファシリテーター」である。
- ・ファシリテーターは、グループワークの目標を達成する方向に向けてグループメンバーの話し合いを促進する機能を果たすために、情報提供や専門的介入を行う。
- ・ファシリテーターは、グループメンバー全員の信頼を得られるように努めるとともに、常に中立的な態度を保ち、グループメンバー全員に対して関心を持ち、グループワークを公正に進行するためのリーダーシップを発揮しなければならない。

### (2) ファシリテーターとしての機能

#### ①原則として「聞き役」に徹すること

#### ②必要に応じてグループメンバーの討論を促すこと（理解を深めることを促す）

#### ③フィードバックのためのコメントを行う

- ・最後に行う「振り返りとまとめ」では良かった点を積極的にコンプリメントし、良くなかった点に関してはどう改善するか考えるように促す
- ・メンバーに助言する際はまず最初にコンプリメントを行い、次に改善点を伝え、最後にもう一度良かった点をコンプリメントする「YNY型 (yes, no, yes) 」を活用すると良い
- ・メンバーの意見を肯定する場合は個人名を出し、否定する場合は個人名は出さずに一般論として述べる方がよい
- ・タイムマネジメントに注意する。特に最後の「振り返りとまとめ」は必ず行い、学習効果や満足度の点で問題がないようにする。



## ▶ 2、グループアプローチ(ワーク)基礎

(1) グループワークにおけるファシリテーターの技法の例

### ・メンバーの発言が少ない場合

しばらく様子を見て、他のグループがどのようにしているか観察する時間を過ごす。グループワークに抵抗がある場合はグループワークの狙いや内容、条件、留意点などを説明した後で質問したり、参加の仕方のモデルを示したりして、速やかに抵抗を取り除いたり、参加意欲を高めておく。

### ・特定の1人が発言ばかりする場合

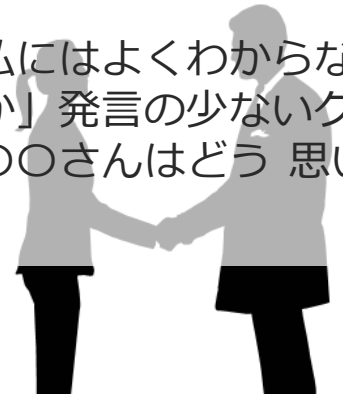
「今の〇〇さんの発言について、皆さんはどう思いますか」等、他のグループメンバーに質問を投げかけて他のメンバーの意見を求めてみる。その発言を無視して、それでも発言を止めない場合は、「他の人の意見も聞いてみたいので」と告げ、明確に阻止する。

### ・話題が逸れてしまった場合

そのグループワークの目的を伝え、確認することによってグループメンバー全員の関心と注意を本題に戻す。「この話は、私も面白いと思いますが、残り時間も少なくなっているので、～という本来のテーマに戻って議論を進めましょう」

### ・理解を深めることを促す場合

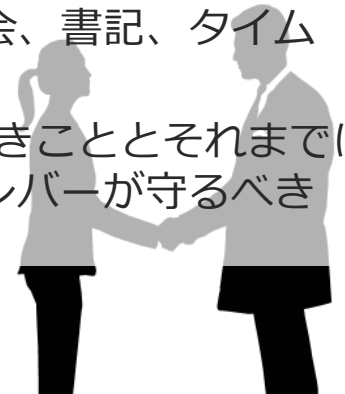
「今の～という発言について、誰からも意見がでなかったようですが、私にはよくわからなかったのですが……」「今の～という発言について、質問はありませんか」発言の少ないグループメンバーがいる場合には、その人に対して「今の問題について、〇〇さんはどう思いますか」と発言を促す。



## ▶ 2、グループアプローチ(ワーク)基礎

### (1) グループワーク運営の留意点と実施方法

- ①**目標の設定と提示**：何のために行うのか、グループワークの目標が明確になっていること。目標は、一般教育目標（グループワークの成果として得られる知識・結論）と行動目標（グループワークが終了した段階で、何をどこまでできるようになっているか）の両面から示す。ワークの最後に発表する場合には、どのような形（スタイルや時間）で発表するか伝えておく。
- ②**資料の配付と確認**：使用するシート、資料等を配付し、どのように用いるか、個人やグループで使用するもの、完成させるものや提出するものなど、ワークの中で行うべき事項を明確に指示しメンバーの理解を得る。
- ③**グループメンバーの決定**：各グループのメンバーを決める。グループメンバーの決め方は、近くの席にいる人をまとめる、じゃんけんや番号順などの偶然的な要素で決める、友人や顔見知りなどをまとめる等の方法の中から、ワークの内容と目的に応じて決める。
- ④**環境の設定**：各グループがワークをする場所を指定し、グループメンバーを移動させる。誰が、どこに移動するか、鞆等の荷物をどうするか等を明確に指示し、時間を取られないように注意する。
- ⑤**役割の決定**：グループメンバーの中で、それぞれが担当する役割（司会、書記、タイムキーパー、発表者等）を決める（必要なら役割の決め方も指示する）。
- ⑥**時間とルールの説明**：実施時間（終了の時刻）、その時間内にやるべきこととそれまでに作り上げるべき成果物の内容を説明する。グループワークを行う際にメンバーが守るべきルールを告げる。



## ▶ 2、グループアプローチ(ワーク)基礎

- ⑦**話し合いの開始**：アイスブレイク（グループメンバーが相互に知らない場合には、ウォーミングを兼ねた自己紹介等）を行い、グループメンバーが打ち解けあい、自由に意見を出し合える和やかな雰囲気を作る。
- ⑧**話し合いの展開**：グループ全体に気を配るとともに、個別のグループの状況にも配慮する。特に、人任せや不参加の行動が見られないかを注視し、必要に応じて対応する。時間管理（進行管理）に留意し、必要に応じて、参加者に経過時間（残り時間）等を告知する等して注意喚起をする。
- ⑨**話し合いの終結**：全グループが決められた時間までに、決められたことを実行できるように導いていく。
- ⑩**成果の発表**：各グループから、討論の結果や経過等を発表。グループの数が多いと同じような発表になるので、やり方を工夫する。各グループが発表する時間の管理に留意する。発表の際、講師は発表に耳を傾け、結果に対しては、他のグループからの質問を受けるだけでなく、講師からの肯定的な評価と改善点を示すなどして、必ずフィードバックする。
- ⑪**振り返り**：各グループの発表に対する総評として良かった点、改善すべき点を告げるだけでなく、グループワークのやり方についても、同様の視点から講評する。全体として、グループワークの目標が達成されたか（目標にどの程度近づくことができたか）についても説明する。
- ⑫**発展学習**：今日の成果をこれからの学習活動、自分の生活などにどのように活かしていく（役立てていくことができる）かを考えてもらう。



### ▶ 3、グループワークの実践

【PDCAサイクルを活用したグループワークの運営について】

(1) PDCAサイクルとは？

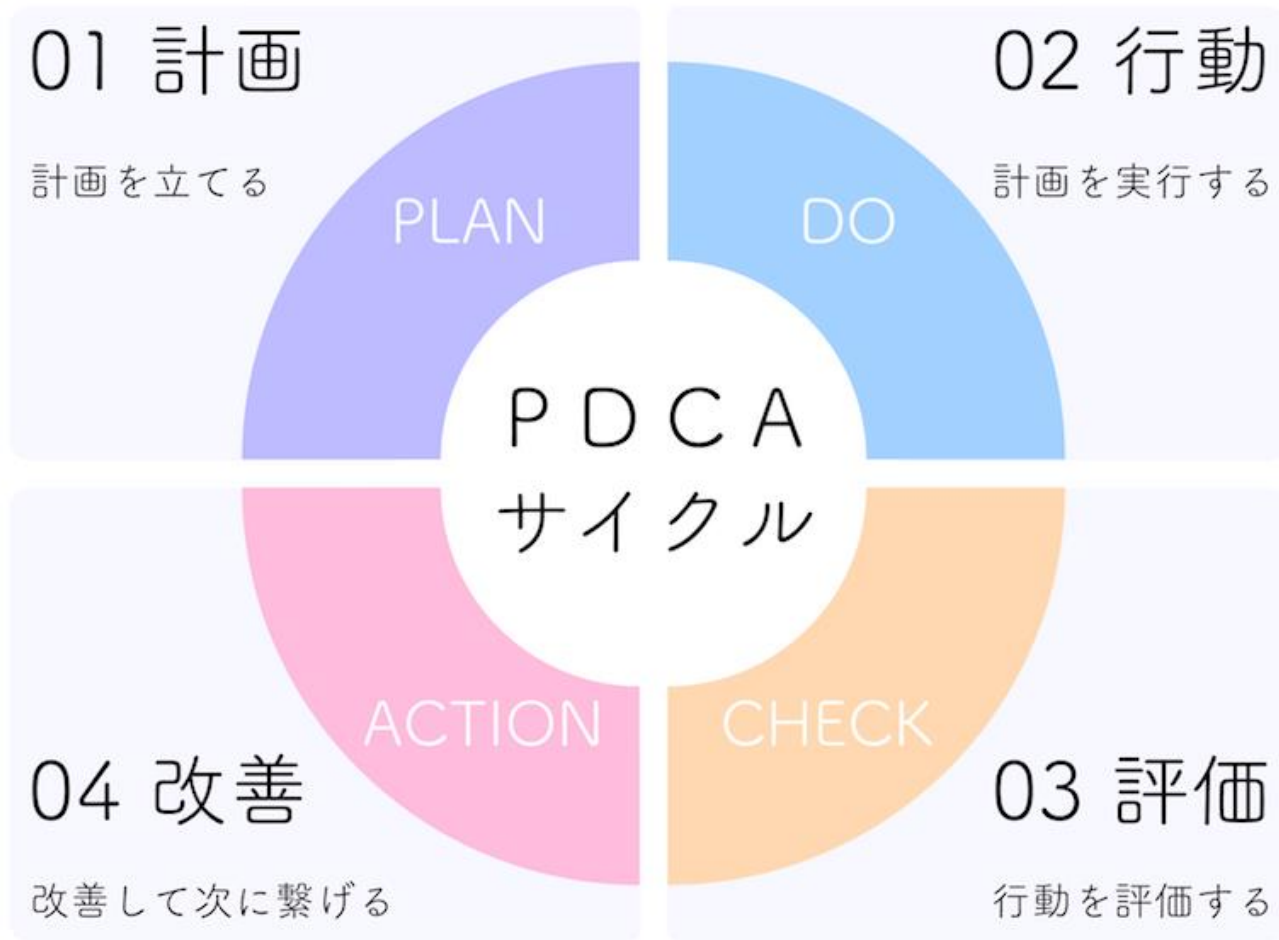




### ▶ 3、グループワークの実践

【PDCAサイクルを活用したグループワークの運営について】

(2) PDCAサイクルの内容



## ▶ 3、グループワークの実践

【P D C Aサイクルを活用したグループワークの運営について】

### (3) P D C Aの体験

- 1、グループになります。
- 2、グループで決められたテーマに関して、ブレインストーミングをします。
- 3、決められた時間内で、意見の優劣が関係なく、多くの意見を出していきます。



## ▶ 3、グループワークの実践

【P D C Aサイクルを活用したグループワークの運営について】

### ◆テーマ

①介護・育児の両立をしやすい支援制度を考えてください。

時間

議論：15分 振り返り：5分

ポイント

例) 「いくつかの案が出ましたか？」

と聞かれたときに答えられるようにしておきましょう。



## ▶ 3、グループワークの実践

【P D C Aサイクルを活用したグループワークの運営について】

(4) checkを考えよう

- ・他のチームのやっていることを実際に取り入れてみよう
- ・意見を出しやすい枠組みをかんがえてみよう。

自己・状況・支援・戦略を加えてみる。(考える枠組みを調整)

例：自己・・・仕事をお願いできるアサーティブ研修、

子育て・休暇は悪くないと思う自己改革

状況・・・休暇制度の浸透、キャリアアップを伝える、テレワークとか？

支援・・・独身が損しない仕組み作り、休暇制度、時短制度、  
婚活支援・子育て支援制度作り

戦略・・・復職と新たな雇用（派遣など）の生産性比較、



## ▶ 3、グループワークの実践

【P D C Aサイクルを活用したグループワークの運営について】

◆テーマ

②若年者の早期離職を防ぐ案を考えてみよう。

時間

議論：15分 振り返り：5分

ポイント

例) 「いくつかの案が出ましたか？」

と聞かれたときに答えられるようにしておきましょう。



## ▶ 3、グループワークの実践

【P D C Aサイクルを活用したグループワークの運営について】

(6) まとめ

- 1、目標をしっかりと設定すること
- 2、お互いに意見を出しやすい環境が作れたか
- 3、協力し合える関係は作れたか

